



7

7 ユネスコ世界遺産に登録されている「アマルフィ海岸」。世界一美しい海岸といわれている  
8 ユネスコ世界遺産に登録されている「パエストゥム」の神殿



8

3 情緒豊かにオシラサマを語る工藤さのみさん  
4 サレルノ国際映画祭の席上で遠野市の紹介が行われた  
5 イタリア語でオシラサマを語る近衛はなさん  
6 今回サレルノ市を訪問した派遣団と市民交流団の皆さん



5 3



6 4



サレルノ国際映画祭で授与した「遠野賞」の盾



1

1 アルマーノ・グエッラ文化担当大臣に親書を手渡す荒田昌典団長。両市の末永い交流を約束した  
2 アマルフィ市長(左)と写真に収まる派遣団の皆さん



2

## Interview インタビュー

あらためて、遠野の文化や自然に誇りを持つこと大切さを実感



大橋進さん  
(66歳、大工町)

初めてサレルノを訪れました。観光旅行では味わえない、現地の生活に入り込んだ人と人の交流が満足しています。サレルノの歴史や文化に触れ、あらためて遠野の文化や自然に誇りを持つことの大切を感じました。

歴史や文化を大事にしたサレルノ 若い人こそ肌で感じてほしい



海老糸子さん  
(70歳、穀町)

2回目の訪問でしたが、どの人にも旧知の仲のように温かく迎えていただきました。歴史や文化を大事にしたサレルノの町並みには、とても感動します。ぜひ、若い人にこそ交流に出掛けてもらい、異文化を肌で感じてきてほしいです。

『遠野物語』は言葉の壁を越え、異国の地でも多くの感動を呼びました。25年間の交流の証し

11月28日の午前には、サレルノ市役所を表敬訪問。アルマーノ・グエッラ文化担当大臣やサレルノ国際映画祭・マリオ・デ・チエーサレ実行委員長が一行を出迎えました。荒田団長が本田敏秋市長から預かった親書を手渡すと、グエッラ大臣は「今後お互いの文化を大切にしながら、さらに交流を深めていきたい」と話し、30周年に向けた新たな交流の発展を誓いました。

さらに、サレルノ市に隣接するアマルフィ市やパエストゥム市、サレルノ県庁へも表敬訪問。サレルノ市

との交流が末永く続き、観光産業などが大きく発展することに期待が寄せられました。

今回の訪問では、締結時から交流に携わる元国会議員のフォルテさんが滞在中の行程の調整役に奔走してくださったほか、元商工観光大臣のスカルラートさんは派遣団・市民団一行をホームパーティーに招待してくださいました。昨年日本の文化を学びに遠野に滞在したアントネッラさんは、通訳を買って出てくださいました。また、滞在中、至る所で儀礼的ではない数々のもてなしがありました。これは、25年の交流が培ってきた「きずな」であり、交流の成果です。これからも両市の発展に向け、互いの文化を生かした交流は続きます。

『遠野物語』を世界へ

『遠野物語』発刊100周年を控えた今回の派遣団の目的は、『遠野物語』を広く世界にPRして、今回はサレルノ国際映画祭の席上で、遠野の語り部が昔話を語るといって、またとない場が用意されました。

文化の異なる異国の地で昔話を語ったのは、語り部グループ「いろり火の会」の会長・工藤さのみさん(65)と新穀町II。遠野の昔話がサレルノで語られるのは、両市の25年の交流の歴史の中でも初めてのこと。

工藤さんは「これまで語り継いできた多くの人たちのことを考えるととても重責でしたが、一緒にいる市民

の皆さんの励ましでいつも通り語ることができました」と振り返る。作務衣姿に身を包んだ工藤さんは多くの観衆が見つめる中、遠野物語の代表的な話「オシラサマ」を情緒豊かに語り、会場のモニターに映し出される遠野の風景などの映像が気分を一層盛り立てます。工藤さんの「どんどはれ」という言葉の後に、会場からは自然と拍手が鳴り響きました。「言葉は通じなくても、語りの雰囲気は伝わったのかな」と工藤さん。続いて女優で「いわて文化大使」の近衛はなさん(東京都出身)がイタリア語で語りました。工藤さんの語りで雰囲気を感じ、近衛さんの語りで改めて内容を理解した会場は大歓声。

# 語りの文化を世界へ発信

今回の訪問で初めて『遠野物語』をサレルノ市で披露しました。互いの文化を理解し、新たな交流の発展へつなげる訪問となりました

## 派遣団の主な行程

11月26日(木)	出発
11月27日(金)	サレルノ国際映画祭参加 市民交流会参加
28日(土)	サレルノ市役所表敬訪問 サレルノ国際映画祭表彰式
29日(日)	サレルノ県内視察
30日(月)	サレルノ県知事表敬訪問
12月1日(火)	ローマ市内視察
2日(水)	帰国